



都市医師会 だより

平成29年度

北見医師会主催・共催 活動報告

北見医師会会長 **今野 敦**
北見医師会前会長 **古屋聖兒**
北見医師会理事 医政担当 **大内博文、木村輝雄**

北見医師会主催・共催の平成29年度に催されたフォーラムや医学大会などについて報告いたします。

平成29年度 地域医療に関わる地域別意見交換会 通算第24回 北見医師会

- 日 時：平成29年8月4日（金）18時30分
- 場 所：北見プラザホテル
- 議 事
 - (1) 地域医療に関わる諸問題（道医から説明）
 - ・地域包括ケアシステム（藤原副会長）
 - ・第7次北海道医療計画（小熊副会長）
 - ・緊急臨時的医師派遣事業（藤原副会長）
 - ・メディカルジェット（目黒常任理事）
 - (2) 地域医療の現状と課題
 - ①外科系休祭日救急当番の体制に関わる問題
三宅理事
 - ②北見医師会看護専門学校の現状と課題
荒川理事
 - ③北見市在宅医療における現状と問題点
本間理事

平成29年度 臨床研修医との懇談会

- 日 時：平成29年9月5日（火）
18時00分から21時00分
- 場 所：ホテル黒部 2階<雲海>
- 懇 談

<新専門医制度>について（小熊副会長）

 - 1) “新たな専門医制度”に対する厚生労働大臣談話
 - 2) 新たな専門医の仕組みについて
 - 3) 新たな専門医制度の開始に向けた声明

- 4) 新専門医制度の今後のスケジュール
- 5) 専門研修プログラム申請状況
- 6) 基幹施設別連携施設数の状況

平成29年度 北見市民フォーラム

- 日 時：平成29年11月25日（土）14:00～15:30
- 場 所：ホテルロイヤル
- 主 催：北見市医療福祉情報連携協議会
- 後 援：北見医師会、北見保健所、北網地域リハビリテーション推進会議、北見工業大学
社会連携推進センター

<北見市医療・介護連携推進事業に係る普及啓発委託事業>

特別講演 **皆さんの老後はいかに？**

北見市の高齢社会を考える

講 師 兵庫県丹波健康福祉事務所長 逢坂 悟郎
北見市の医療・介護連携推進事業の一つとして、市民向けのフォーラムを毎年実施しています。昨年度は兵庫県丹波健康福祉事務所長の逢坂悟郎氏を招き、「皆さんの老後はいかに？ 北見市の高齢社会を考える」をテーマに講演していただきました。

講演では、日本と北見市の人口動態、超少子高齢社会における国の政策と住民活動への期待、2025年の在宅医療・介護についてのメッセージがありました。超少子高齢社会でこの役割を担う働き手の減少によりサービス需要は増大し、供給量が減少します。今より少ない現役世代で、今より多くの高齢者ケアを行わなければなりません。そこで現役世代だけでは、多くの高齢者を支えきれないので、元気な高齢者が支える側に入らなければなりません。そうでないと、現役の医療・介護が、軽度対象者にも対応することになり、中重度者のケアができなくなるというお話でした。

平成29年度 オホーツク脳卒中研究会市民公開講座

- 日 時：平成29年12月16日（土）
14:00～15:30
- 場 所：北見芸術文化ホール 中ホール
- 主 催：オホーツク脳卒中研究会
- 共 催：北見保健所
- 後 援：北見市、北見医師会、北網地域リハビリテーション推進会議
- 講 演
脳卒中予防の暮らし方と脳ドックの活用
講演 I：脳ドック受診のポイント
－脳ドックで何が分かるのか－
講 師 医療法人社団高翔会北星記念病院
健康推進室 室長 田 頭 剛 弦

講演Ⅱ：脳卒中予防における生活習慣病と
脳ドックの活用

講師 北見赤十字病院

脳神経外科部長 木村 輝雄

12年前にオホーツク脳卒中研究会が発足して以来、その活動目的の一つであった脳卒中の予防に対する啓発活動として、今回で12回目の市民講座になります。過去、北見市、紋別市、遠軽町、斜里町、津別町などで開催されてきましたが、今回は、脳ドックを受診することで何がわかるのか？それをどのように脳卒中の予防に結び付けていくのか？について解説し、脳ドックを有効に活用することへの理解を深めるのに意味のある市民講座でした。

第11回オホーツク医学大会

■日 時：平成30年3月10日（土）14:00～17:30

■場 所：ホテル黒部 2階

■主 催：北見医師会、北見医工連携研究会

■後 援：北見歯科医師会、北見薬剤師会、オホーツク獣医師会、北見工業大学、日本赤十字北海道看護大学、東京農業大学オホーツク実学センター

○特別講演 コーヒーの美味しさを科学する

講師 東京農業大学

食品香粧学科 妙田 貴生

至極の一杯を目指した研究の一部をご紹介します。豆と水と美味しさ（産地の異なる豆の違い、硬度異なる水で抽出したコーヒーの違いを機器・官能分析して評価）や抽出方法と美味しさ（抽出器具による香味の変化を機器・官能分析して評価）、豆の保存状態と美味しさ（異なる状態と温度で保存した豆の抽出液を、機器・官能分析して評価）、美味しい一杯にカフェインは必要？（苦いと考えられるカフェインの効果を解析）等について、わかりやすく講演していただき、その後、コーヒー一杯を入れる際にも科学して、こだわりをもって味わえる楽しみができた素晴らしいご講演でした。

○一般講演

- 1) 「血精液症におけるMRIを用いた精嚢構造の解析」
- 2) 「環境省エコチル調査：調査概要および状況」
- 3) 「当院のメンテナンスを検証する
－成人のメンテナンスと喪失歯数の関係について－」
- 4) 「東藻琴食肉衛生検査所におけるHACCP制度化へ向けた対応について」
- 5) 「ヴァーチャル・リアリティに酔うということ：
4点圧力センサーによるVR環境下での重心移動の計測」
- 6) 「足部、足関節の関節鏡を用いた最新侵襲手術」

- 7) 「病院におけるアスリート・リハビリテーションの現状と課題」
- 8) 「関節リウマチの抗CCP抗体価の変動と疾患活動性の検討」
- 9) 「膝前十字靭帯再建材料における人工靭帯の有効性」
- 10) 「野球肘、投球障害肩における東洋医学的手法を応用したリハビリテーション」
- 11) 「人工膝・股関節置換術の前後における重心動揺性の変化」
- 12) 「フレイルとサルコペニアの関連性について
－整形外科入院患者における検討－」
- 13) 「フレイルとサルコペニアの関連性について
－リハビリテーション介入の有効性」
- 14) 「腱移植手術のscarless healingを目指すために
～膝前十字靭帯再建モデルを用いての研究～」

○ポスター・パネル展示リスト

- 「オホーツク産食素材の高度利用法の研究開発」
- 「明瞭な色変化で糖濃度を図るセンサー」
- 「高付加価値シイタケの育種と栽培廃液から得る酵素成分の有効活用」
- 「ブレイン・マシン・インタフェース(BMI)を用いたリハビリ機器の開発」
- 「簡便な処理で骨適合性チタン材料を製造する新表面処理技術」

○北見医工連賞授賞式

・北見医工連賞贈呈

受 賞 者 日本赤十字北海道看護大学

教授 根本 昌宏

・北見医工連賞受賞者講演

「特別治療食を考慮した画期的調理法の開発に関する研究」

災害時においては糖尿病など食の配慮が必要な患者も多くいます。医療関係者に加え、栄養士、調理師等が関わりにくい状況で、患者本人もしくは患者を看る家族にとって、食事にそれらの配慮を細かく実施することは難しく、簡便な調理法が求められます。全国の赤十字奉仕団では、白米の炊出し用に高密度ポリエチレンに厚みを持たせ縦長の袋ハイゼックスを利用してきました。ハイゼックスを用いて白米以外の調理を実現させるために、さまざまな食事メニューの開発とそのために必要な新ハイゼックスの研究開発を行った事例を紹介していただきました。